

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	11 -	事業名	地域間交流事業	担当部課	くらし文化部たつせがある課
------	------	-----	---------	------	---------------

基本情報	総合計画	基本方針	2	リリモでにぎわい交流するまち	会計	1	一般会計	
		分野別項目	10	にぎわいあふれる新たな観光交流を進める	款	2	総務費	
		施策の進め方	-		項	1	総務管理費	
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～		目	9	まちづくり協働費
		政策分類	1	住民の力を生かした新しい役割分担の仕組みをつくる		大事業	6	地域間交流事業
	その他(関係法令、要綱等)		南木曾町: 交流宣言書、宝塚市: きずなづくりの誓い					
事業開始の背景、経緯等		南木曾町は木曾川の水源地が縁で平成18年に交流宣言書調印を行い、宝塚市は介助犬訓練施設「シンシアの丘」が縁で平成24年に覚書「きずなづくりの誓い」を締結し、交流を開始した。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ①市民間及び自治体間の交流を推進する。特に友好提携を結んでいる長野県南木曾町及び兵庫県宝塚市との交流を推進する。 ②自治体間相互訪問 ③本市及び南木曾町施設利用優待制度実施					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民及び自治体					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民間及び自治体間で交流し、相互理解を深める。					
	事業を構成する事務事業	① 地域間交流事業	②	③	④	⑤	⑥

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		事業費(A)	千円	予算 決算	/	/	53 8	54 19
	人件費(B)	千円	決算	/	/	2,673	1,375	
	総コスト(A)+(B)	千円	決算	/	/	2,681	1,394	

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 自治体間相互訪問交流件数	件	目標	-	-	5	6	6
			実績	-	-	5	6	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 両市町と本市との交流の実態を把握するため、行事への招待など、自治体間で職員が相互訪問し交流及び情報交換した件数を指標とする。								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣の自治体間交流実施市町: 日進市(長野県木祖村、三重県志摩市)、尾張旭市(石川県輪島市)、東郷町(長野県王滝村)
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 様々な事業への参加により、交流の件数の目標は達成している。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 当課において市全体の交流の実態を把握できていないため、2市町以外で西尾市など以前交流していた市町についても現状把握や内容の整理を行い、把握に努める必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 交流を継続し、施設相互利用促進だけでなく、市全体で交流を促進するよう周知していく。2市町以外で以前交流していた市町についても現状把握や内容の整理を行う。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 29年度中に全課における自治体間相互交流の実態把握をする。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		地域間交流事業										
番号	①	事務事業名	地域間交流事業		款	2	項	1	目	9	大事業	6	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成18年度		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	①市民間及び自治体間の交流を推進する。特に友好提携を結んでいる長野県南木曾町及び兵庫県宝塚市との交流を推進する。 ②自治体間相互訪問 ③本市及び南木曾町施設利用優待制度実施
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民間及び自治体間で交流し、相互理解を深める。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			53	54	54
		決算			8	19	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自治体間相互訪問交流件数	件	目標	-	-	5	6	6
		実績	-	-	5	6	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

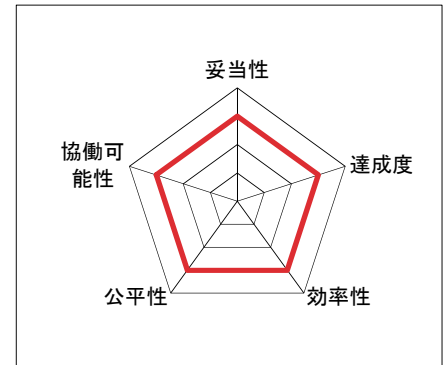
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
自治体間の交流についてウッドスタートなど事業が増加しつつある。市民まつりや各課の事業を通じた市民同士の交流も続いている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
両市町と本市との交流の実態を把握する。交流を継続し、施設相互利用促進だけでなく、市全体で交流を促進するよう周知していく。
(何をどのような状態に改善したのか)
交流の実態把握をするため、年1回各課への調査を実施することとし、次年度以降に実施していく。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
南木曾町について、提携を結んでから途切れることなく交流をしている。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
他課で実施している交流の状況把握ができていない。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
他課で実施している交流の実態や、相互施設利用優待制度利用数の実態調査をし、今後の交流の更なる推進につなげる。相互施設利用優待制度の新たな周知方法を検討し、実施する。また、2市町以外で以前交流していた市町について、現状把握や内容の整理を行う。